

心臓をまもる



大好きなドクターイエローと富士山

みんなの声 ～特集～ 新入学によせて 3

鹿兒島 静岡 山口 長野 埼玉

医療講座

心臓に病気をもつお子さんの運動について 21

小野 晋 神奈川県立こども医療センター

そよ風 まちの頼れるお医者さん 16

黒江 兼司 (くろえもくもクリニック)

言の葉・心の花 大阪 2

ほっとタイム 岡山/今月の表紙 静岡 10

のびゆく芽 横浜 新潟 11

本部・社会のうごき 12

各地のうごき 北陸・北関東ブロック 東京南 福岡 14

FRIENDS TO HEART 福岡 広島 静岡 23



2025
No.738

2025年9月20日



一般社団法人 全国心臓病の子どもを守る会

「心臓をまもる」毎月20日発行 定価1部500円 (会員は会費に含む)

<https://www.heart-mamoru.jp/> E-mail mail@heart-mamoru.jp

まちの頼れるお医者さん

変わり続ける小児心臓医療、
地域で支える未来へ

くろえもくもくクリニック

黒江 兼司 先生

姫路でクリニックを開業してもうすぐ3年。来院するお子さんは保育園に通う年齢の子が多く、なかには在宅酸素療法を行いながら通園してくる、グレン術後でフォンタン手術待ちの無脾症候群のお子さんもいらつしゃいます。にこにこ近寄ってきて、保母さんや看護師さんたちが教えたのか、片言で「くろえせんせ ありがと」と言って足にハグしてくれるたびに、私が小児科医になった1980年代前半の小児心臓病医療が、今はまるで違った状況であったことを思い出します。

当時、心臓のエコーはリアルタイムで動きが見えるようになったばかりで、血流の情報はまだ得られませんでした。心臓カテーテルの造影記録も、レントゲンフィルムを何枚も並べ替えるアナログな時代。心臓手術においては、装置や器具の制約から新生児や乳児への体外循環が難しく、幼い命に対する手術は極めて困難で、選択肢も限られていたのが実情でした。特に、左心低形成症候群のような重症例は、トップクラスの病院ですら生存率が低く、多くの医療従事者やご家族が深い悲しみを抱

えていました。

そんななか、縁あってモンゴル、エジプト、マレーシア、中国、アメリカなどの国々で小児心臓カテーテル診断・治療に参加する機会を得ました。そこで強く感じたのは、国の経済状況や政治の安定が、子どもたちの医療に大きく影響するという現実です。

日本よりも医療が進んでいると思われがちなアメリカでも、手技の丁寧さでは日本に軍配が上がると感じることもありました。さらに、発展途上と捉えられがちなマレーシアが、イスラム国のメディカルハブ政策の下、日本より新しい医療デバイスを容易に導入しているという驚きもあり、国際的な医療の多様性を肌で感じました。今のガザやウクライナではどんな状況だろうと想像するだけで悲しい思いになります。

幸いに、政治的にも経済的にも安定していた日本は、この数十年間で小児循環器医療は劇的に進化しまし

【経歴】

- 1981年：愛媛大学医学部医学科卒業
- 1983年：市立宇和島病院 小児科医長
- 1989年：国立循環器病センター小児科
チーフレジデント
- 1992年：兵庫県立こども病院 小児科部長
(循環器科)
- 2004年：特定医療法人徳洲会東京本部
小児医療対策室長、宇和島・神戸・松原
の各病院で副院長・小児センター長
- 2013年：なでしこレディースホスピタル副院長
- 2021年：姫路市で一般小児科診療開始
- 2022年：くろえもくもくクリニック開業
-
- 2012年 右冠動脈ステント留置
- 2019年 心房細動アブレーション治療

た。体外循環技術や手術手技の洗練、術後管理の向上、そして在宅酸素療法の小児への導入などにより、治療戦略の選択肢が格段に拡がりました。これにより、新生児や超低体重児への心臓手術も安全に行えるようになり、手術成績は飛躍的に改善。診断技術も著しく進歩し、胎児診断の普及も進んでいます。一方で、高度な医療資源や技術、専門医は依然として一部の地域に偏りがちです。小児心臓疾患の治療は、医療資源や人的資源を分散させずに集中させる方が成績が良くなるという事実もあり、地域間の格差について

は、ある程度割り切って考える必要もあるのかもしれないと感じています。

心臓病の原因研究も進み、染色体や遺伝子レベルでの関与が明らかになってきたことで、新たな応用も可能になりました。その最たる例が着床前診断です。これは、体外受精で得られた受精卵を子宮に戻す前に遺伝子検査を行い、遺伝性疾患のリスクを事前に把握する技術です。これを先天性心疾患にも応用し、過去に重症心疾患のお子さんをもつご家族が、次の妊娠を考える際に参考にすることも、技術的には可能になっていきます。もちろん倫理的な議論も伴うため、慎重な運用が求められますが、小児循環器医療は治療だけでなく、診断から予防、そして次世代の家族計画まで多角的に進化を続けているのです。

現代医療は高度な専門分化が進み、個々の治療レベルは向上しましたが、全体を俯瞰し、包括的に診る医師が少なくなる傾向もあります。私自身は、昔の医療現場を知る者として、そしてこれまでの

経験で培った全体像を把握する強みを活かし、専門化する現代においても、体力・気力の続く限り、地域のクリニックの医師として、ご家族の様々な医療相談に乗り、お子さんとご家族を総合的にサポートしていきたいと考えています。最後に、次世代を担う若い先生方が、この専門化の恩恵を最大限に活かし、さらに研究を深め、技術を高めることで、子どもたちにより良い医療が提供される未来を心から願っています。

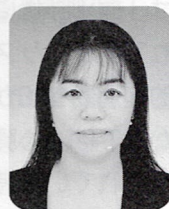
👥 スタッフからみた先生の横顔

元々兵庫県立こども病院などで勤務されていて特に小児循環器に精通。気さくで優しく、普段から患者さんやご家族の目線に立って丁寧に診察されています。症状が気になる患者さんに連絡されることもあったりと患者さん思いで、私たちスタッフにもいつも笑顔で接してくださる素敵なお先生です。

お知らせ 「心臓をまもる」第1回オンライン医療講座開催！ 「フォンタン術後遠隔期の肝疾患」

「心臓をまもる」の医療講座を執筆して下さった先生が、誌面を飛び出してオンラインによる医療講座を講演して下さる企画がスタートします。これは会員アンケートで「医療講座の内容をもっと詳しく知りたい」などの感想が多く寄せられたことから、オンラインで最新の状況も加えて、分かりやすく講演してもらうものです。

第1回目となる今回は、723号（2024年6月号）に掲載された医療講座 No.151「フォンタン術後遠隔期の肝疾患」の小木曾智美先生（東京女子医科大学消化器内科）です。会報を読んだ方も、まだ読んでない方もこの機会にぜひ学んでみませんか。お手元に会報を用意してご参加ください。



小木曾智美先生

日時：10月9日(木) 18:00~20:00

- *開催方法：Zoom
- *対象：守る会会員（参加無料、事前申込要）
- *申込締切：9月30日（火）

参加申込みは右のQRコードから→



（参加申込みフォームのURL）
<https://forms.gle/Q68K7gqkak9adxqb9>

*お手元に会報がない方は本部事務局までご連絡ください。

